

支援実績一覧

分類	カテゴリ	内容	地域	
1	ネットワーク形成	ミーティング・勉強会・研修等	意欲ある農家同士および関係者との交流会や勉強会、研修等の開催。延べ500人以上の農家が参加し学びを共有	人吉球磨全域
2	人材確保支援	スポットワーカー	生姜やミシマサイコなど、農繁期における人材不足の課題にスポットワーカーを活用	人吉球磨全域
3	人材確保支援	農業版地域の人事部	ネットワーク形成や人材確保を通して、農家同士の情報共有や相互支援の機会創出、人手不足の解消および担い手の呼び込みを図る	人吉球磨全域
4	生産性向上支援	スマート農業	球磨地域初の野菜の露地栽培への農業用ドローン導入により、防除・追肥作業を効率化	錦町
5	生産性向上支援	スマート農業	水稲の長期栽培形態における除草剤散布に農業用ドローンを初導入するとともに地域間でノウハウ習得	多良木町
6	生産性向上支援	スマート農業	ラジコン草刈り機導入により夏場の草刈りの無人化と作業負担軽減、作業効率化	錦町
7	生産性向上支援	農作業受託	乗用型草刈り機の導入により、農家と地域の異業種が連携し、地域内の農地管理の改善を目指す	錦町
8	生産性向上支援	女性活躍	軽量の電動刈払機等の活用を通じた作業効率化や他県の農業現場視察により女性農家活躍を促進	錦町・相良村
9	生産性向上支援	農地集約管理	耕作放棄地等の対策としてトラクターへの草刈アタッチメントを導入し維持管理を地域で担う	あさぎり町
10	生産性向上支援	害虫捕獲技術	ジャンボタニシ対策で、防除剤に頼らず駆除できる捕獲器を導入、環境負荷低減と生産安定化を図る	錦町・あさぎり町
11	生産性向上支援	害虫捕獲技術	ジャンボタニシ捕獲機の他地域への展開等を行い、対策の再現性確保と地域普及の実現を図る	錦町・あさぎり町・人吉市
12	生産性向上支援	鳥獣害DX	トレイルカメラを活用した鳥獣害対策を実施。罾の仕様や誘導餌の工夫など、捕獲率向上に向け改善	球磨村
13	生産性向上支援	土壌科学分析	土壌内の微生物の活性を測定する土壌分析サービスを活用、作物の品質向上のための土づくりを目指す	錦町
14	生産性向上支援	アグリテック	球磨焼酎粕を使った光合成細菌培養技術の実証実験	錦町・あさぎり町・人吉市
15	ブランディング支援	夏秋イチゴ産地化	赤色LED導入により虫害を削減し、五木村の夏秋イチゴ産地化と人吉球磨への技術展開を目指す	五木村
16	ブランディング支援	産直アプリ	栗、自然薯などについて、産直アプリを活用したキャンペーン実施、アプリ活用のアドバイス	人吉球磨全域
17	ブランディング支援	米オーナー制度	遠隔見守りシステムを通じたお米のオーナー制度の導入による付加価値の向上	多良木町
18	ブランディング支援	若手米農家	あさぎり町の若手グループのロゴを使用したTシャツ、米袋の作成。販売会などで活用し認知向上	あさぎり町
19	ブランディング支援	地域食材販促	地域の食材を広めるためのオリジナル段ボール・シール等を開発し、販促に活用	多良木町
20	熊本県の政策との連携	食のみやこ出店	食のみやこ熊本 三ツ星グルメフェス&ファーマーズマーケットへの出店支援、広報物制作によるPR	人吉球磨全域
21	熊本県の政策との連携	食のみやこ料理人ツアー	熊本市の料理人が、人吉球磨産品へ理解を深め、農家との直接取引機会、ストーリー付きで料理提供できるようにするスタディツアーを実施	人吉球磨全域
22	熊本県の政策との連携	食のみやこPR	食のみやこ熊本県との連携施策、特設LPを作成、熊本県内にWEB広告配信を行い事業認知を向上	人吉球磨全域
23	熊本県の政策との連携	親元就農	親元就農の促進のために、就農予備群へのヒアリング調査や促進に向けた交流会を実施	人吉球磨全域

WITH THE RIVER



人吉球磨・農業未来プロジェクト



<https://withtheriver.com/>

【発行元】

一般社団法人 RCF
 人吉球磨・農業未来プロジェクト事務局
 〒163-0649
 東京都新宿区西新宿 1-25-1 新宿センタービル 49 階 +OURS 新宿 R-22
<https://withtheriver.com/>
agri@rcf.co.jp
 2026年6月



PHILIP MORRIS JAPAN

本冊子はフィリップモリス ジャパン 合同会社の支援により制作しました

WITH THE RIVER



人吉球磨・農業未来プロジェクト



川
と
共
に
生
き
る
。



人吉球磨・農業未来プロジェクトとは

豪雨災害からの復興

人吉球磨地域の農業者を支援



「人吉球磨・農業未来プロジェクト」は、人吉球磨地域における農業の持続的発展を目指す農業振興の取り組みです。フィリップ モリス ジャパン合同会社が資金を提供し、一般社団法人RCFが運営する、農業者の課題解決を伴走支援するプロジェクトとしてスタートしました。人吉球磨地域の10市町村を対象として、地域の課題を踏まえ、「ネットワーク形成」「人材確保支援」「生産性向上支援」「ブランディング支援」の4つの柱で支援事業を推進。地域の農業の未来を育んでいくことを目指しています。

2020年7月に発生した「令和2年7月豪雨(熊本豪雨)」は、大規模な線状降水帯による記録的な大雨となり、人吉球磨地域に甚大な被害を与えました。

フィリップ モリス ジャパン合同会社は、人吉市への復興支援を実施したのち、その支援のフォーカスを地域の農業に広げ、2023年7月に始まったのが「人吉球磨地域・農業未来プロジェクト」です。同プロジェクトでは、「WITH THE RIVER」というタグラインのもと、人吉球磨地域で農業に従事する皆さんが持つ「LIVING(=時には厳しい自然と向き合いながら、この土地だからこそ作れるものを育て続けたい)」「TRY(=100年先まで

続く農業を目指し挑戦を続ける)」「JOY(=自分なりのライフスタイルを築き、農家という生き方を楽しむ)」という魅力を大切にしながら、地域の農業の未来を育んでいくことを目指しています。

プロジェクトは、フィリップ モリス ジャパン合同会社の資金拠出のもと、東日本大震災を機に設立された非営利団体「一般社団法人RCF」が運営を行い、地域で活動する「一般社団法人ドットリバー」が協働して展開。プロジェクトには、県の球磨地域振興局をはじめ、人吉球磨地域の10市町村、地域団体なども連携・協力しています。この熊本県におけるプロジェクトがモデルとなり、同様の取り組みを他県においても実施しています。

LIVING

WITH THE RIVER

球磨川や川辺川。

私たちは川の恵みを受けて農業をする
清らかな水と盆地特有の気候が作物を育む
時には厳しい自然と向き合いながらも、
この土地だからこそ作れるものを育て続けたい

TRY

WITH THE RIVER

地域で誰も作っていない作物をつくる
よりよい品質のため難易度の高い栽培法を試してみる
自分の足で販路を開拓する
100年先まで続く農業を目指し、私たちは挑戦を続ける

JOY

WITH THE RIVER

家族との時間。仲間との時間。余暇の時間。
農家だからこそ、
自分なりのライフスタイルをつくることのできる
農家という生き方を、私たちは楽しむ

1.ネットワーク形成

若手農家を中心とした
勉強会や交流会



若手農家同士がつながり交流し、より農業を楽しんでもらうために、彼らの関心に合わせた学びや交流の場として「Hitoyoshi Kuma Farmer's Meetup」を開催。人吉球磨地域の若手農家を中心に、地域関係者なども交えた勉強会や交流会をこれまで地域関係者なども交えた勉強会や交流会、研修会等を実施。延べ500人以上が参加しました。

2.人材確保支援

繁忙期における人材の確保に
スポットワークサービスを活用



農家が共通して抱える課題の一つが、植え付けや収穫といった繁忙期の人材確保です。プロジェクトでは、2024年3月から、人材確保支援の第1弾として、スポットワークサービスを手掛ける企業と連携し、モデル事業を展開。求人開始後すぐに定員が充足し、地域内外から若手人材や農業経験者のマッチング・確保にもつながりました。

プロジェクトの主な取り組み

3.生産性向上支援

テクノロジーの活用で
作業効率アップ



人吉球磨地域の農家でも、後継者や担い手の不足は深刻です。その解決策の一つとして注目されているDXやドローンの活用といったテクノロジーを使った生産性向上を支援。露地野菜への農業用ドローン活用やジャンボタニシ対策などの取り組みを行っています。

4.ブランディング支援

ブランディング支援や
販路開拓をサポート



農産物や加工品の販路拡大やブランディングも、農家の大きな課題です。プロジェクトでは、オンライン直販やブランディングなど付加価値向上を支援。若手就農グループが独自ブランディングした米で熊本市のイベントへ進出、生産者と消費者が直接つながるきっかけ作りを支援しました。

ネットワーク形成

つながって共に創り出す。
人吉球磨の農業を未来につむぐために！

交流イベントの実施などを通じてつながりづくりを促進

人吉球磨・農業未来プロジェクトでは、ネットワーキングの取り組みの一つとして、「Hitoyoshi Kuma Farmers' Meetup」を開催しています。これは、人吉球磨地域の意欲ある農家の交流会で、2024年1月の第1回を皮切りに、数カ月間に1回程度の頻度で行いました。この交流会は、若手農家の「やってみたい」を実現できる場であると同時に、志を同じくする仲間たちの活動から刺激を受ける場、参加することで新たな出会いや学びにつながる場にしていくことを目指しています。「意欲があり、前向き

に農業に取り組んでいる方」「地域の農業の未来を考えていきたいと思っている方」であれば誰でも参加可能です。「Hitoyoshi Kuma Farmers' Meetup」では若手農家が実現させたい新たな取り組みの発表をはじめ、テーマを設けてのグループワークや成功事例の共有などを行っています。さらに、座学だけにとどまらず、機材導入などの先進的な事例を実際に現場に足を運んで体感する視察や参加者同士の親睦を深めるためのBBQ大会なども取り入れて、多様な形で農家同士のつながりづくりに貢献しています。

直近のプロジェクト支援実績(一部)

1. 錦ビレッジ「露地栽培におけるスマート農業(ドローン活用)」
2. 最後の砦ハンター「トレイルカメラによる狩猟の効率化」
3. ジャンボタニシ研究所「捕獲器による食害対策の効率化」
4. MASSEN「異業種との協業による持続的な地元農家支援」
5. 錦スマート農場 若嫁会「女性農業者による作業環境改善」
6. 多良木のびる「スマート農業システムfarmoによる水田管理とお米のオーナー制度」
7. 錦町農産物等直売所出荷協議会「焼酎粕を使った光合成細菌培養技術の実証実験」



現地視察で乗用草刈り機に試乗する様子



捕獲器を設置した現場の視察の様子

地域の農業が活性化するためには、個々の農家の努力や工夫はもちろん、地域内の若手農家同士がつながり、交流や学びの場を通じて情報交換や共有を行って切磋琢磨していくことが重要です。人吉球磨・農業未来プロジェクトでは、そうしたネットワーク形成のサポートも行っています。



これまでの「Hitoyoshi Kuma Farmers' Meetup」

第1回/2024年1月29日開催

<主なプログラム>

- アイスブレイク
- プロジェクト発表
「マルシェプロジェクト」
「農家経営勉強会」
「土づくりからはじめる新しい人吉球磨の農業」
「新規就農者の道標に生産、販売～ブランド化に向けて」
- グループワーク
マイプロジェクト発表に対する気付きや感想のまとめ
各テーブル内での共有、全体での発表など



第2回/2024年6月6日開催

<主なプログラム>

- アイスブレイク
- 「スポットワーク」の理解とサービス事例
- プロジェクト進捗発表
「人吉球磨地域に価値の共有体験を」
「農家の学びのコミュニティ」
「品質の安定化の先に見据える地域へのプロモーション」
「自分のこだわりと収量の拡大に合わせた販路づくり」
「山江村から変える、農業の未来」
- グループワーク
「法人化」「販路開拓」「マルシェ」について
「スポットワークの可能性」と体験談共有 など



第3回/2024年11月6日開催

<主なプログラム>

- 新メンバー紹介
- プロジェクト発表
錦ビレッジ「露地野菜におけるスマート農業(ドローン活用)」
最後の砦ハンター「トレイルカメラによる狩猟の効率化」
MASSEN「異業種との協業による持続的な地元農家支援」
ジャンボタニシ研究所「ジャンボタニシを駆逐し隊」
- グループワーク
プロジェクト終了までに検討したいアクション など



第4回/2025年4月12日開催

<主なプログラム>

- グループワーク
仕事の中で見つけた小さな幸せ
- 支援プロジェクト進捗状況共有
錦ビレッジ「露地栽培におけるスマート農業(ドローン活用)」
最後の砦ハンター「トレイルカメラによる狩猟の効率化」
ジャンボタニシ研究所「捕獲器による食害対策の効率化」
MASSEN「異業種との協業による持続的な地元農家支援」
錦スマート農場 若嫁会「女性農業者による作業環境改善」
多良木のびる「スマート農業システムfarmoによる水田管理とお米のオーナー制度」
錦町農産物等直売所出荷協議会「光合成細菌「くまレッド」による品質向上の取り組み」
- BBQ大会 など



第5回/2025年9月29日開催

<主なプログラム>

- 現地視察会
ジャンボタニシ研究所「ジャンボタニシ捕獲器・スクミッチの活用」
錦スマート農場若嫁会「電動式草刈機と噴霧器を活用した女性の農業負担軽減」
錦ビレッジ「農業用ドローンを活用した農業散布の効率化」
農事組合法人アグリネット錦「農業用ドローンと無人ヘリを併用した防除・散布」
MASSEN「乗用草刈機モアを活用した耕作放棄地対策」
- ワークショップ
人吉球磨農業未来プロジェクトの今後について
- 懇親会 など



すき間時間に働けるスポットワーク 農家の繁忙期の人手不足を解消

「繁忙期だけ働く人を集めたい」「短時間だけ来てほしい」などの募集する側、「副業がOKになったので、すき間時間に何かしたい」「少しでも収入を増やしたい」という働く側、双方にとってメリットがあることで、さまざまな業界で利用が広がっているスポットワーク。人吉球磨地域の農家でも、繁忙期にはいつも以上の人手が必要にも関わらず、その確保は年々難しくなっています。

こうした状況を踏まえ、人吉球磨農業未来プロジェクトでは、スポットワーク情報を提供するアプリを活用。「働きたい時間」と「働いてほしい時間」をマッチングすることで、農繁期の人材不足解消を目指す取り組みを進めています。スポットワーク活用のメリットや利用の流れ、また実際に活用して人材確保を行った農家の感想などと併せて紹介します。



農家がスポットワーカーを活用するメリットは？

✓ 最短、即日でマッチングが可能

24時間以内に70%以上の求人がマッチングしており、繁忙期はもちろん、急に人手が必要になった際にも働き手を呼ぶことができます。

✓ 1回目からスカウトがOK

リピーター限定公開での求人募集ができるほか、継続的なアルバイトとして働いてほしい場合には、手数料なしでスカウトすることも可能です。



✓ その他のメリット

スマホ一つで簡単に募集が完結
掲載費用は「0円」で、成果報酬型

スポットワーク利用の流れ

アプリであらかじめサービス登録をしておけば、「日時、人数、報酬」を設定するだけで募集を開始できます。さらに、「体力に自信のある人」「農業に興味のある人」など、条件を入力することで、より募集する側の希望に合う即戦力の人材を呼び込むことも可能です。働き手から応募があると面接不要ですぐにマッチングとなります。当日の受入れ後は、サービス事業者から働き手に対しては即日給与の支払いが行われますが、利用した農家には、月末にまとめて請求が届きます。



近年、人吉球磨地域では、地域の高齢化や農家の担い手不足などさまざまな要因で、作付けや収穫といった一時的に人手が必要な時期の人材確保が難しくなっています。その解決策の一つとして期待されているのが「スポットワーク」です。



使ってよかったスポットワーク！—利用者(農家)の声—



Aさん



栽培経験者など“即戦力”の応募も

ミシマサイコのマルチ張り作業にスポットワーカーを活用しました。当初は、農作業に応募があるのかと不安でしたが、8名の募集枠全てがすぐにマッチングして驚きました。熊本市や八代市等の地域外からも応募があったほか、他地域のミシマサイコ栽培経験者や若い方など、即戦力が来てくれたのも助かりました。今後も草取り作業などで活用していきたいです。



Bさん



継続的に働いてもらえる人材にも出会えそう

ミシマサイコの刈り取り作業に急に新たな人手が必要になり、スポットワーカーを2名募集しました。すぐに1組のご夫婦から応募があり、1日3時間程度、3日間来てもらいました。

オンラインだとどんな人が応募してくるのか不安もありましたが、継続的に働いてもらいたいと思うようないいワーカーさんに巡り合えました。



Cさん

若い方の募集が多く今後の活用にも期待

シヨウガの定植作業にスポットワーカーを活用しました。求人情報の作成もしっかりサポートしてくれ、簡単に募集ができ、情報掲載後はすぐに募集枠が埋まりました。12名の募集に対して17名の応募があり、全員20～40代の体力のある方たちでした。若い方が応募してくるので、今後も収穫作業などで活用を考えています。



人吉球磨地域内の農家もスポットワークを活用



生産性向上支援

DXによる若手農家たちの新たな挑戦 テクノロジーを活用した生産性向上

地域課題の一つである農家の後継者・担い手不足。その解決策の一つで、生産性向上につながるのが、ドローンの活用をはじめとするテクノロジーの導入です。プロジェクトの支援による導入の事例や、その成果について紹介します。



農業用ドローンの飛行実演の様子。小型でも安定性は高く、騒音も少ないのが特徴

錦町／錦ビレッジ
代表 平野典幸さん



ドローン活用で露地野菜での 農薬散布の省力化に成功

主に白ネギの露地栽培を行っている平野さんたち農家グループ「錦ビレッジ」。現在の作付面積は約3.5ヘクタール。耕作放棄地なども活用し、今後は面積を1.5~2倍に広げるとともに、法人化も目指しています。平野さんたちは、栽培しているネギの付加価値を高めるために農林水産省の特別栽培農産物のガイドラインに沿った栽培にこだわり、農薬や化学肥料の使用を通常の半分以下に抑えています。一方で、今後の作付面積の拡大なども見据え、作業の効率化が課題となっていました。

そこで、ドローンを活用した農薬・肥料散布を導入。これによって従来の方が行う動力噴霧では1反当たり約15分かかかる作業が、ドローンを使うことでおよそ10分短縮でき、防除・追肥作業にかかる時間を約7割も削減。大幅な効率化に成功しました。こうした成果を受け、平野さんは今後、本格的なドローン運用体制の整備だけでなく、地域の生産者へのドローン活用の普及や、他の露地野菜への展開なども考えています。



平野さんは、「過酷な農業の現場にこそテクノロジーを持ち込み、持続可能性を高めないといけない」と意気込みます



球磨村／最後の砦ハンター
代表 平海斗さん



平さんのタケノコ園地に設置したカメラ。土中に隠したくくり罠付近を撮影しています

鳥獣害対策DXにトレイルカメラを活用

鳥獣害対策を担うハンターの高齢化・減少が進む中、増加の一途をたどる農作物への被害を抑えるためには、狩猟の効率化が欠かせません。そこで、平さんたち農家グループ「最後の砦ハンター」の皆さんは、仕掛けた罠(わな)の付近にトレイルカメラ(自動撮影カメラ)を設置。カメラの映像で動物の種類や行動様式、罠に対する反応などを観察・分析して罠の精度や捕獲率の向上に努め、被害軽減を目指しています。



カメラには、シカの捕獲目的の罠の餌をタヌキが食べている様子も映っていました



電動式の実演では、「これなら女性や高齢者も安心」「思った以上に音が静か」など高評価

電動式草刈り機など導入し、 農業での女性活躍を推進

地域農家に嫁ぎ農業を担う女性6名によるグループ「スマート農女会」。女性の農作業の負担軽減と快適な作業環境の整備を目的に、電動式の噴霧器や草刈り機を導入して作業環境改善に取り組み、地域農業の持続性向上を目指しています。これら電気式機械の導入により軽量化はもちろん、操作の簡便化、無排気・静音・低振動などの効果で疲労軽減につながり、女性に限らず、高齢者の農作業従事や活躍推進が期待されます。



以前のエンジン式では始動に時間がかかり、「草刈りを後回しにすることもあった」とか

錦町／
スマート農女会



ブランディング支援

コストを抑え、価値を高める。
次世代へとつなぐ、高効率な産地づくり。

光合成細菌「くまレッド」で収量増や品質向上。 今後はブランディングにも活用予定

異常気象による収量・品質の低下への対策で導入

錦町農産物等直売所出荷協議会は、2003年に錦町の道の駅錦の敷地内にオープンした農産物直売所「くらんど市」に農産物や加工品を納めている生産者や事業者で構成されており、錦町から指定管理を受けて直売所の運営全般を担っています。

「くまレッド」導入のきっかけは、一昨年の異常気象。雨が降り続いたかと思えば日照が続くなどの影響で、作物の品質と収量が大きく落ち込みました。その一方で、桑原さんをはじめ、「くまレッド」を使用していた一部の協議会メンバーの作物は比較的被害が少なく、品質も維持できていたことから協議会全体で導入に向けた勉強会を開くことになりました。



「くらんど市」に並ぶ錦町の農産物

勉強会、モニターを経てブランディングにも

協議会では、昨年3月に会員を対象にした勉強会を開催し、「くまレッド」の特長や導入のメリットなどについて説明。5月から、約20戸がモニターとなり導入を開始しました。モニター栽培を行った作物は、米、スイカ、トマト、きゅうり、なす、ピーマンからカーネーション

などの花きまでさまざま。各生産者からは、「糖度が上がった」「色つやが良くなった」「収穫期間が延びた」など、喜びの声が多く寄せられました。今後は、「くらんど市」に並ぶくまレッド使用商品をブランド化するなどの取り組みも進めていく予定です。



くまレッド使用を謳いブランド化



「お試しセット」も販売されているくまレッド

地元の特産品「球磨焼酎」の粕を活用

「くまレッド」は、人吉球磨出身の社長が興したベンチャー企業が開発した農業資材で、球磨焼酎製造の過程で大量に廃棄される焼酎粕を、光合成細菌を培養する培地(エサ)として活用している地域循環型のプロダクトです。土壌を改善する効果があり、作物の成長促進や収量アップ、食味向上などが期待できます。しかも、本来専門的な知識が必要な光合成細菌の培養が、専用のキットを使って安価に手軽にできるのも魅力です。



錦町／錦町農産物等直売所出荷協議会
会長 桑原 崇さん



今後の展望や課題

現在、錦町農産物等直売所出荷協議会のメンバー内で利用促進を図っている「くまレッド」ですが、今後は地域で生まれた農業資材として広く人吉球磨地域全体で導入先を増やし、栽培された高品質の作物や、それを使った加工品をブランド化するなどして生産者・事業者の収益向上や地域農業全体の活性化につなげていくのを目標としています。

高齢化や担い手不足などの課題に加え、温暖化による異常気象など、近年、農業を取り巻く環境が厳しさを増す中、人吉球磨地域の農業とそこで栽培される農産物の価値向上につなげる取り組みが、本プロジェクトの支援のもとで展開されています。



九州の秘境・五木村を「夏秋イチゴ」の産地に 新たな虫害対策が効果を上げる！



産地化を阻むアザミウマによる虫害

五木村で20年にわたり、「夏秋イチゴ」(夏から秋にかけて収穫されるイチゴ)の栽培に取り組んでいる前畑さん。2024年には村との間で、耕作放棄地活用や担い手の育成・確保を目的とした協定を結び、「夏秋イチゴ」産地化を目指しています。

一方で、近年は気候変動と物価高、人件費高騰など、さまざまな課題にも直面しています。その一つが、温暖化の進行に伴って活性化する期間が長くなったアザミウマによる虫害。その分被害も長期化し、収穫量の減少と品質の低下が深刻な経営問題となっています。



農作物に重大な被害をもたらすアザミウマ



赤色LEDが灯ったハウスの様子

農薬だけの対応には限界が…

農薬での対応は、コスト面はもちろん、1回の散布に4~5時間を要するため、夏場の散布などは特に過酷です。また、害虫が薬剤耐性を持つなど、いたちごっこの状況が続いていました。そこで、コストや労力を削減できて、かつ効果の高い害虫対策として赤色LEDという新たな農業技術に着目。本プロジェクトによる支援のもと、赤色LEDでのアザミウマ防除本格導入に向けた取り組みを始めることになりました。

赤色LEDを使った新技術が効果を発揮

農業用赤色LEDによるアザミウマの防除は、アザミウマが特定の波長の赤色光を嫌う性質を利用して、アザミウマを寄せ付けなくするための新しい技術です。昨年7月から前畑さんの農園で導入を開始。定植時期の4月には間に合わなかったものの、それでも例年に比べてアザミウマの活性が低く、虫害で廃棄せざるを得ない規格外の量も減るなどの効果が見られました。今後、定植時期の前から照射を行うことで、さらに効果が高まると期待されています。



色鮮やかに実った前畑農園のイチゴ

五木村／前畑農園
代表 前畑佳男さん



今後の展望や課題

五木村との産地化に向けた協定に基づき、村内の他のイチゴ栽培農家でも赤色LEDの活用を進めていますが、今後は、白色LEDを使ってうどん粉病を抑制するという製品との併用や、新規就農者に向けての活用提案なども行っていきたいと考えています。

県政策との連携

熊本県の取り組みに歩調を合わせ ブランディングや担い手確保を支援

熊本県は農業産出額が全国第6位であり、全国でも有数の農業県です(令和6年農林水産省統計)。県は「食のみやこ熊本県」創造推進ビジョンを策定し、食の高付加価値化や販路拡大等に取り組んでいます。

また、農業を支えるひとづくりも重要です。県では、「親元就農」をはじめとした新規就農者の確保・育成のため、就農啓発から相談、研修、仲間づくり、経営発展までを支援しています。これらの取り組みを通じて、熊本県の食と農業を活性化し、熊本の食で世界を魅了することを目指しています。

人吉球磨・農業未来プロジェクトでは、地域の課題を踏まえ、ネットワーク形成や生産性向上など4つの柱で地域農業を支援しています。特に、令和7年8月からは、「食のみやこ熊本県」創造推進ビジョンと連動し、人吉球磨の農産品のブランディング支援を推進している一方で、「親元就農」を農業の担い手確保の有効な支援対象として位置づけるなど、熊本県の施策と歩調を合わせながら、地域の農業の活性化を推進しています。



食のみやこ熊本 三ツ星グルメフェス&ファーマーズマーケット出店当日の様子の様子



県の施策と連携し、さまざまな形で人吉球磨の農産物・加工品のブランディングを支援



地域農業の活性化を目指して、より効果的な支援につなげるためには、行政等関係機関との連携は不可欠です。人吉球磨・農業未来プロジェクトでは、熊本県が取り組む農業施策に協力し、連携した取組を展開しています。



食のみやこ熊本県 消費者、食の専門家、生産者が人吉・球磨の農産品の価値を再発見

消費者向け

食のみやこ熊本 三ツ星グルメフェス &ファーマーズマーケットに出店!

2月21日(土)・22日(日)に熊本市中心市街地で開催された「三ツ星グルメフェス&ファーマーズマーケット」に、人吉球磨・農業未来プロジェクトからもさまざまな農産物や加工品を扱う農家が出店しました。また、この日は熊本県の木村敬知事やフィリップ モリス ジャパン合同会社の小林猷一副社長も会場を訪れ、各ブースで販売されている商品を手に取り、生産者の説明に耳を傾けていました。

出品概要(作物、加工品)

自然薯、アピオス、米、にんにく、にんにく加工品、はちみつ、ジャム、ジビエ加工品、豚肉加工品、イチゴ、冷凍イチゴ、唐芋がね揚げ など



食の専門家向け

人吉球磨産品と料理人をつなぎ、料理への活用を促す

人吉球磨地域の産品の魅力を知り、飲食店での取り扱いを増やすことを狙いとして、熊本市等の料理人に地域を訪問してもらうツアーを企画しています。料理人と生産者の交流を通じて、地域の農産物への理解を深め、料理へ活かせる土台を作ることを目指しています。



生産者向け

光合成細菌を活用した「くまレッド」で農作物の価値を高める

球磨焼酎粕を使って培養する光合成細菌「くまレッド」という、フードテック・アグリテックの力を活用し、農作物の品質向上や収量アップに向けて積極的に使用しています。



親元就農 農業を次世代につなぐ担い手を確保

農業の担い手確保が重要視されている中で、親や親族の農業経営を継ぐ「親元就農」の促進も大事な取り組みの一つです。

人吉球磨・農業未来プロジェクトでは、親元就農の希望者を掘り起こし、地域の先輩就農者との交流会等によるコミュニティ形成や、就農にあたっての支援情報の提供等を進めていきます。これらの取り組みによって、若者が安心して地元で就農できる環境を整備しました。



若手農家の取り組みや交流(イメージ)



地域の基幹産業である「農業」を支え 持続可能な農業を営める環境づくりを！



フィリップモリスジャパン合同会社
副社長 小林 献一氏



熊本県東京事務所
所長 田口 雄一氏

豪雨災害を乗り越え、 中長期的な支援へ

—まず、本プロジェクトが始まった経緯について教えてください。

小林 フィリップモリス ジャパン(PMJ)は、地域に根ざした活動を大切にしてきました。熊本県とは、2016年の熊本地震や2020年の豪雨災害での支援を通じて深いご縁があります。活動の中で地域の皆様の切実な声を直接伺い、一時的な寄付に留まらない、中長期的な視点での支援が必要だと痛感しました。そこで、地域の基幹産業である農業を支えるべく「人吉球磨・農業未来プロジェクト」を立ち上げたのです。

—そんな人吉球磨地域の農業は、どのような特徴・魅力がありますか？

田口 この地域は、周囲を山々に囲まれ、領主・相良氏による「相良700年」の歴史が育んだ豊かな農畜産物や球磨焼酎など独自の食文化が発達しています。農地を潤す「幸野溝・百太郎溝」は先人たちが総出で築き上げた経緯があり、「皆で一つのことに取り組む」という連帯の精神が今も息づく地域です。一方で、豪雨災害の爪痕は大きく、人口流出に伴う担い手不足が問題となっています。だからこそ、地域の方々が地元の魅力を再認識して誇りを持ち、それを外に向けて力強く発信していくことが、これからの発展には不可欠だと考えています。

4つの重点テーマで支援 地域活性化のモデルケースに

—具体的にはどのような支援を展開されているのでしょうか。

小林 地域のニーズに基づき「ネットワーク形成」「人材確保」「生産性向上」「ブランディング」という4つのテーマを掲げています。例えば「ネットワーク形成」では若手農家の交流



出店者のブースを回り、商品の説明を受ける小林副社長(写真右)と田口所長

「人吉球磨・農業未来プロジェクト」を通じて人吉球磨地域の農業の持続的向上を支援するフィリップモリス ジャパン合同会社の小林 献一副社長と、熊本県東京事務所の田口 雄一所長が、同地域の持つ魅力や農業の未来について対談しました。



会や勉強会、研修会等を行い、延べ500人以上の方に参加いただきました。また「生産性向上」では、ドローンによる農薬散布の省力化や鳥獣害対策のDXなどを推進しています。

田口 このような外部のノウハウや資金は、地域内だけでは解決しきれない課題をクリアする大きな力になっています。今年2月の「三ツ星グルメフェス」への出店支援は、農家の皆さんが自分たちの作物に自信を持ち、消費者の反応を直接感じられる貴重な機会となりました。

小林 そう仰っていただけると嬉しいです。「ブランディング」を通じて農家の皆様の挑戦を後押しすることは、プロジェクトの核となる部分です。

田口 企業・行政・農業者が一体となって一つの目標に向かうこの取り組みは、まさに地域活性化の新たな「先進モデル」になると確信しています。

地域のブランド力を高め “稼げる”農業の実現へ

—これからの展望についてお聞かせください。

小林 私たちの最終的な目標は、農家の皆様が持続可能な農業を営める環境を作ることです。ここで培ったトライ&エラーの成

果を、熊本全域、九州、そして日本全国へ広げ、食料の安定供給に欠かせない農業現場の課題を解決する「ロールモデル」にしていきたいと考えています。

田口 心強いです。県が目指すのは、ブランド力を高めることで農業者の所得が向上し、若者が「稼げる農畜産業」だと実感できる未来です。激動の時代にあっても、しなやかに挑戦し続ける若い農家が増え、移住やUターンで誇りを持って就農・継承してくれる。そんな持続的な発展を期待しています。

小林 農家の皆様は、食の生産だけでなく地域の防災・減災も支えておられる、命を育む尊い存在です。私自身、この美しい地域を訪れて、その価値を改めて実感しました。次世代の若手農家の皆様が、農業を通じて地域を守り、さらに輝けるよう、これからも全力で応援し続けます。



2月21日・22日に行われた「三ツ星グルメフェス&ファーマーズマーケット」で参加した人吉球磨地域の生産者のブースはどれも大盛況でした。